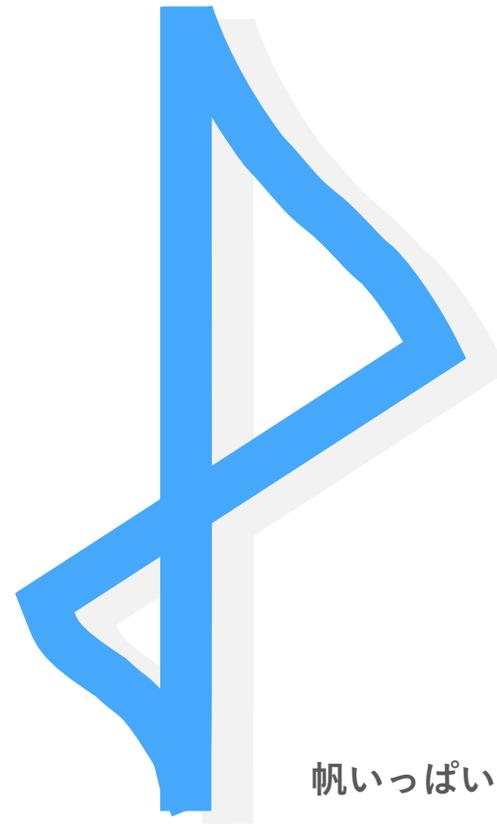


日本海信用金庫

第102期 (2025年3月期)

業務報告書



帆いっぱい、夢をはらんで。

# AGENDA

## 目次

1

第102期（2025年3月期）の振り返り

2

第102期（2025年3月期）の決算

3

第103期（2026年3月期）の計画

4

剰余金処分案

# AGENDA

## 目次

1

第102期（2025年3月期）の振り返り

2

第102期（2025年3月期）の決算

3

第103期（2026年3月期）の計画

4

剰余金処分案

# 新たな時代に向けた変革への挑戦

～相互扶助の理念のもと責任金融機関として地域の持続可能性を高める～

経営方針

課題解決により地域と信用金庫の未来を豊かにする  
地域に貢献するため自己変革する  
ウェルビーイング経営を目指す

2027年3月期

3

2026年3月期

2

PICK UP

## ✓ 市場金利の上昇に伴う対応

お取引先への説明対応 収益計画の変更検討

## ✓ 新紙幣発行に伴う対応

新紙幣発行に伴う設備導入

## ✓ 本業支援の取組み強化

県・3金庫共同でビジネスフェア開催 外部連携機関の拡充

2025年3月期

1

## 2024年度における主な取組み

### □取引先課題解決（本業支援）

取引先の課題解決に向けた取組みを共に考える

（2024年度実績）

- ・計画策定 65件
  - ・事業承継 17件
  - ・補助金 39件
  - ・販路拡大 29件
  - ・人財確保 23件
  - ・その他※ 55件
- ※IT・DX支援 29件

### □事業性評価に基づく融資

必要以上に担保に依存することなく事業内容や成長可能性を適切に評価して融資を実施する

（2024年度実績）

- ・99件、2,590百万円

### □「せがれ塾」開講

2年間のプログラムで取引先の後継者育成に資する

（2025年3月：第11期生15名卒業）

### □「島根県内3信用金庫ビジネスフェア・島根県産品展示商談会2024」開催

日本海信用金庫、しまね信用金庫、島根中央信用金庫、島根県による共同開催（2024年11月：101社参加）

### □金融のデジタル化への対応

- ・しんきんバンキングアプリの利用推進

（2023年度実績）利用者数 963名

（2024年度実績） // 2,204名

- ・スマホ決済サービス「Bank Pay」  
少額個人間送金「ことら送金」サービスの取扱開始
- ・法人向けデジタルサービス「日本海しんきんケイエール」の取扱開始

### □大切な預金・情報を守る対策

- ・ATMでのAI画像検知による特殊詐欺被害の抑止
- ・窓口での振り込み詐欺等の特殊詐欺防止
- ・マネーロンダリング対策の強化
- ・サイバーセキュリティ対策の強化

### □文化・スポーツ・環境美化への貢献

- ・石見子供神楽どんちっち祭り開催（約1,000人来場）
- ・浜田市、江津市、益田市の草刈りやごみ収集等
- ・小学生（ソフトボール）や園児（サッカー）が参加する球技大会への後援・協賛

# 本業支援の取組事例

## 1. 支援のきっかけ



既存のお取引先からのご紹介により面談

## 2. 現状・課題



ヒアリング等を通して現状を整理し課題を抽出

## 3. 支援内容

### ① 創業計画の策定支援

- ✓ 事業プランの明確化
- ✓ 収益計画の作成
- ✓ 将来に向けたビジョンの構築

### ② 資金調達の支援

- ✓ 設備投資計画の見直し
- ✓ 補助金活用の提案
- ✓ 外部機関との接点構築、連携

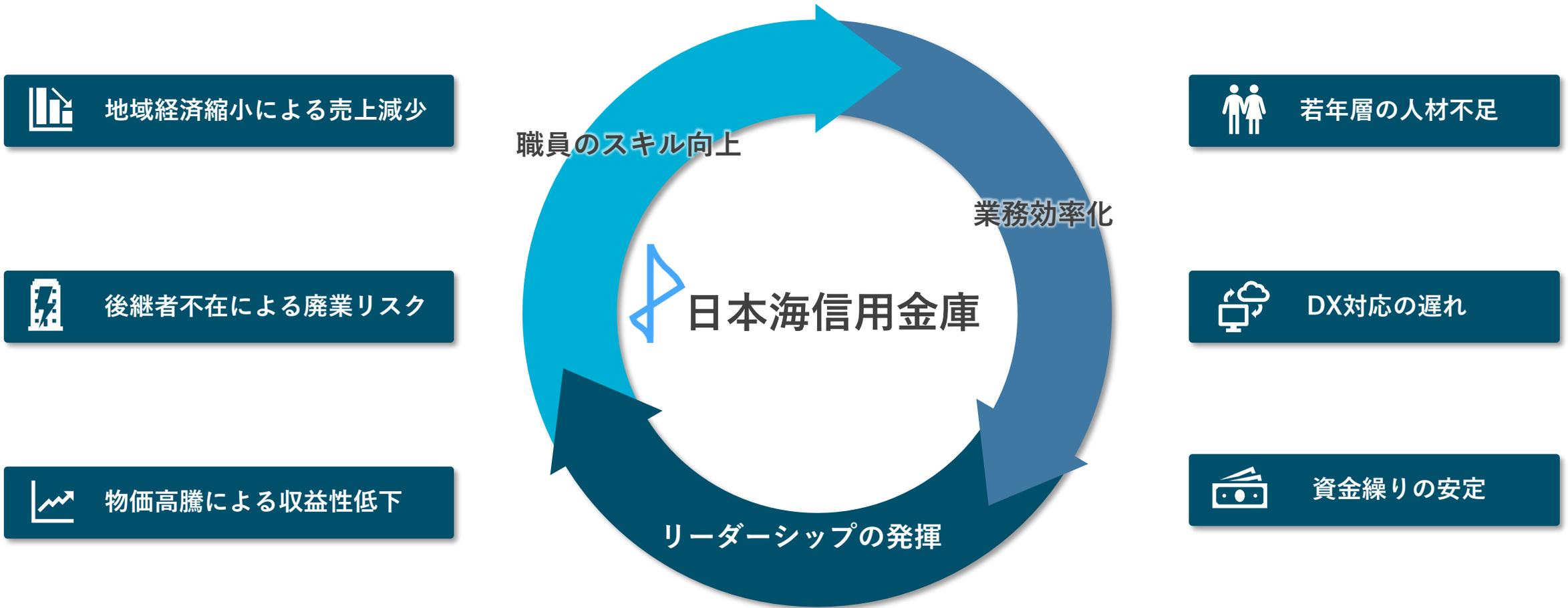
### ③ 創業後の集客力強化に向けた本業支援

- ✓ 集客力強化のため、当庫お取引先とのマッチングを提案
- ✓ 保証協会の専門家派遣制度「結」を導入し、SNS強化を図る

## 4. 支援結果

- 1 事業計画を策定することで、計数管理の土台が整った。また、事業プランを明確化することで、本人のモチベーション向上につながった。
- 2 設備投資額を大幅に削減することに成功。また、複数の補助金も採択となり、費用負担の削減につながった。
- 3 創業時に外部機関を巻き込むことで、各機関と接点を持つことができ、支援体制を構築できた。
- 4 複数の当庫お取引先と実際にマッチングし事業を行っている。

## 地域・お取引先と深度ある対話を行うために



**業務効率化と職員のスキル向上を推し進め、地域課題の解決に向け行動していきます。**

地域の持続性を高めるためには、当金庫自身が強くあらねばなりません。そのためには、前例にとらわれない業務効率化施策等を実行していくことが喫緊の課題です。

「現状維持」は「衰退」と認識し、経営陣はもとより管理・監督職の意識と行動変容を強く促し、不易流行を体現していきます。

# AGENDA

## 目次

1

第102期（2025年3月期）の振り返り

2

第102期（2025年3月期）の決算

3

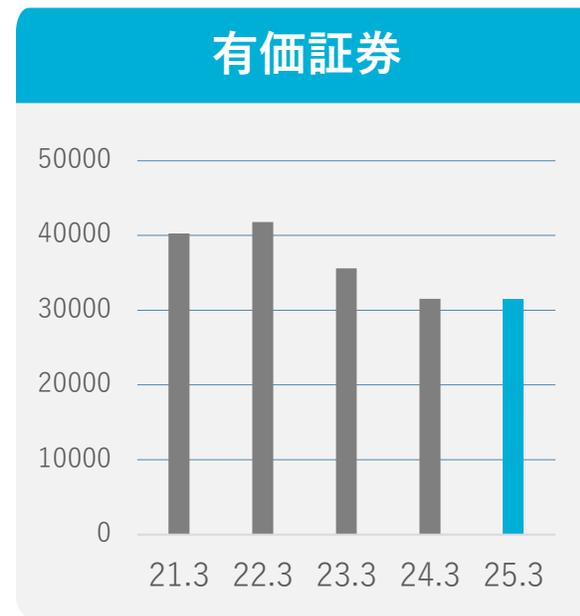
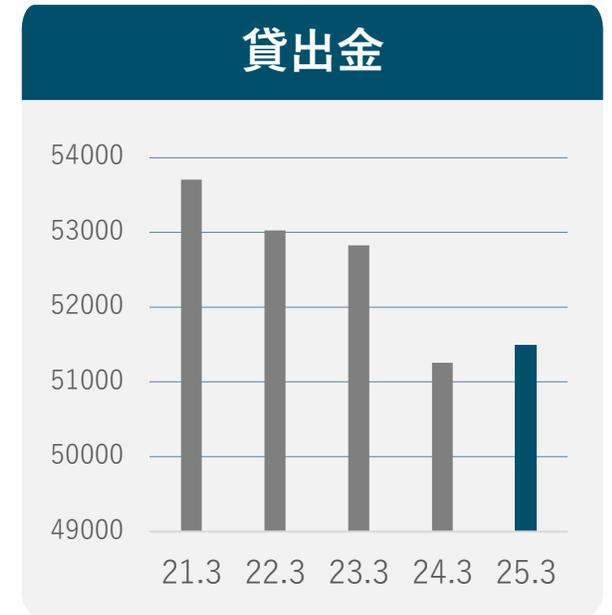
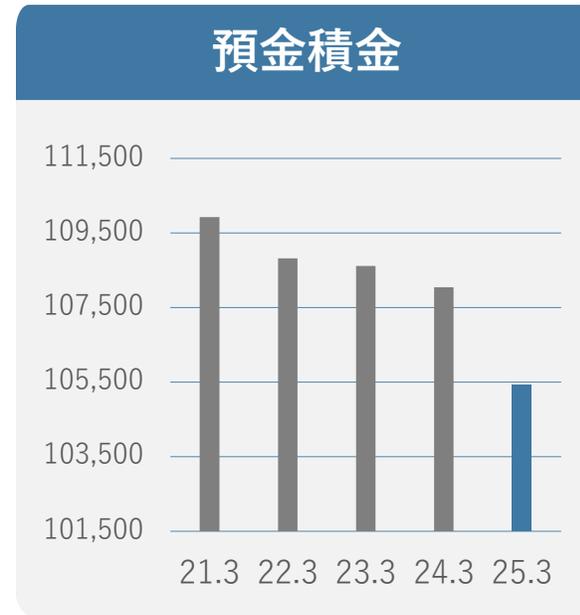
第103期（2026年3月期）の計画

4

剰余金処分案

単位：百万円

	2024年3月	2025年3月	増減
<b>預金積金残高</b>	<b>108,047</b>	<b>105,416</b>	<b>▲2,630</b>
当座預金	1,842	1,654	▲188
普通預金	56,583	57,275	691
貯蓄預金	1,068	1,046	▲21
通知預金	4	23	18
定期預金	45,152	41,878	▲3,273
定期積金	2,940	2,677	▲263
その他の預金	455	861	406
<b>貸出金残高</b>	<b>51,257</b>	<b>51,491</b>	<b>233</b>
<b>有価証券残高</b>	<b>31,499</b>	<b>31,515</b>	<b>15</b>
<b>預け金残高</b>	<b>27,046</b>	<b>24,521</b>	<b>▲2,525</b>

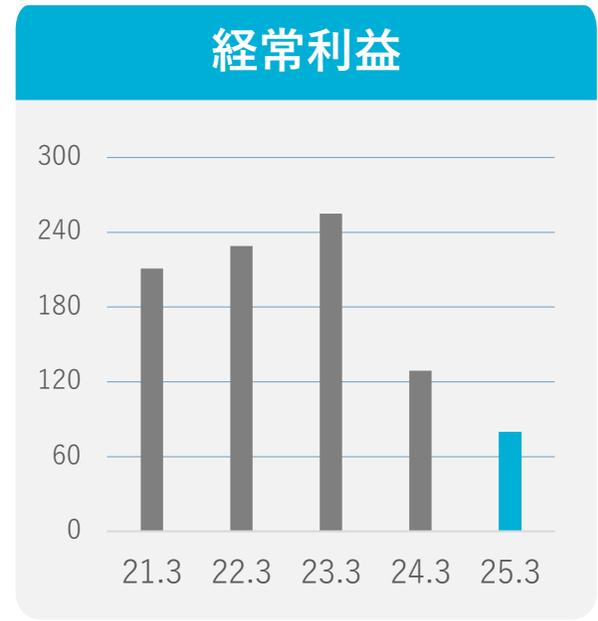
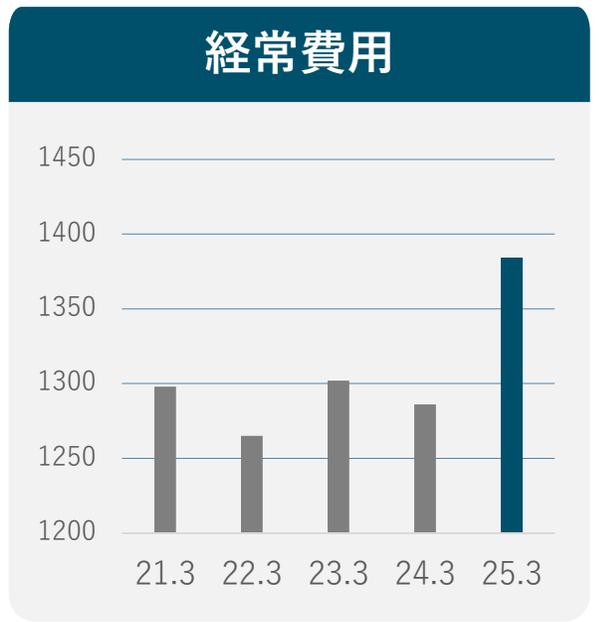
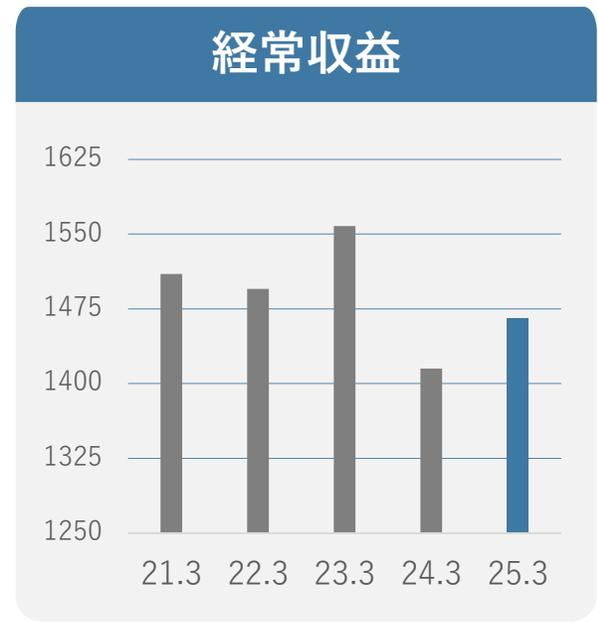


ポイント

- ✓ 預金減少人格別 個人：▲1,239M 法人：▲1,392M
- ✓ 預金減少主要因 コロナ資金返済本格化、所要資金増加
- ✓ 貸出金増加要因 既存先の大口案件集中、住宅駆込需要
- ✓ 預け金減少要因 預金積金の庫外流出

単位：百万円

	2024年3月	2025年3月	増減
<b>経常収益</b>	<b>1,415</b>	<b>1,465</b>	<b>49</b>
貸出金利息	735	766	30
預け金利息	73	126	53
有価証券利息	359	338	▲21
<b>経常費用</b>	<b>1,286</b>	<b>1,384</b>	<b>98</b>
預金利息	11	65	54
人件費	629	672	43
物件費	375	383	7
<b>経常利益</b>	<b>129</b>	<b>80</b>	<b>▲48</b>
特別損益	▲6	▲3	3
<b>当期純利益</b>	<b>97</b>	<b>110</b>	<b>12</b>
<b>コア業務純益</b>	<b>164</b>	<b>117</b>	<b>▲47</b>

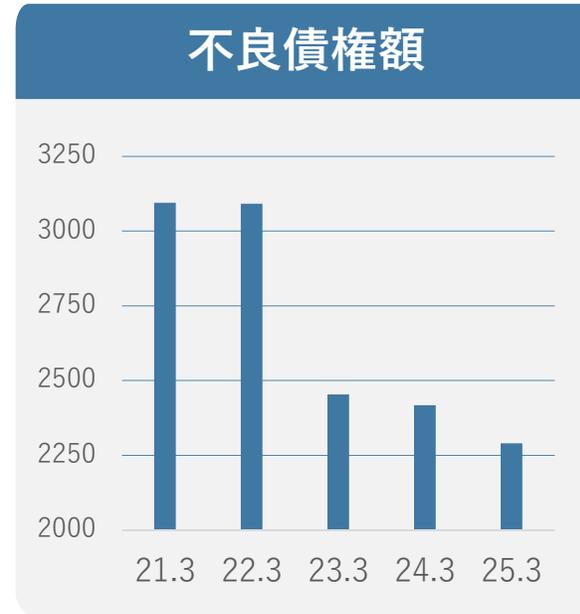


ポイント

- ✓ 金利上昇に伴う、貸出金利息および預け金利息の増加
- ✓ 金利上昇に伴う、預金利息（支払利息）の増加
- ✓ 投信メンテに伴う、有価証券利息の減少
- ✓ 賃上および物価高騰に伴う人件費・物件費の増加

単位：百万円

	2024年3月	2025年3月	増減
不良債権額	2,418	2,290	▲128
不良債権比率 (%)	4.65	4.40	▲0.26
自己資本額	5,559	5,675	115
自己資本比率 (%)	12.15	11.50	▲0.65



ポイント

- ✓ 不良債権の適正処理を実施
- ✓ 不良債権の適正処理に伴い不良債権比率も改善
- ✓ 当期純利益の確保に伴い、自己資本は順調に増加
- ✓ バーゼルⅢ完全適応に伴い自己資本比率は低下

当金庫は、国内基準の4%、国際基準の8%  
を上回る自己資本比率となっています。

# AGENDA

## 目次

1

第102期（2025年3月期）の振り返り

2

第102期（2025年3月期）の決算

3

第103期（2026年3月期）の計画

4

剰余金処分案

## 2025年度事業計画方針

石見地域の特色と住民の多様なニーズを的確に捉え、環境・社会・経済の各側面から持続可能な発展に寄与するとともに、卓越した専門性と柔軟なサービスで、地域の皆様から絶大な信頼を勝ち取る金融機関を目指す。

### Mission（使命・目的）

地域の経済成長と生活の質向上を支援するため、先端の金融サービスと地域に根ざした支援活動を通じ、全ステークホルダーの持続的発展を後押しする。

### Vision（将来のありたい姿）

地域における金融の中心的存在となり、柔軟なサービスと堅実な経営基盤により、絶えず高い信頼と評価を獲得できる未来を目指す。

### Value（価値基準・行動指針）

深度ある対話と提案を軸に、顧客、従業員、地域社会と共に歩む姿勢を大切に、多様な課題に対して柔軟かつ責任ある解決策を共に創出する。

## 2025年度計数計画

単位：百万円

	3か年	単年度	差額
預金積金（平残）	112,000	108,318	▲3,682
貸出金（平残）	50,229	50,500	271
有価証券（平残）	34,685	33,952	▲733
コア業務純益	178	139	▲39
貸出金利息	735	855	120
有価証券利息配当金	376	379	3
預金支払利息	28	231	203
経費	1,064	1,082	18
経常利益	101	53	▲48
当期純利益 ※	85	46	▲39
貸出金利回り	1.465	1.689	0.224
有価証券利回り	1.087	1.117	0.030
預金利回り	0.025	0.214	0.189
総資金利鞘	0.080	0.057	▲0.023
修正OHR（除く投信解約損益）	81.26	83.37	2.11

※ 除く配当利子所得税還付見込額

## 2025年度事業計画の達成に向けて

### 当地域の持続性を守るために

皆さまからお預かりした資金（預金）は、融資という形を通じて地域経済の活性化に寄与しています。こうした事にご理解いただくとともに、当金庫に預金をいただくことに利便を感じてもらえるような新しい預金商品の企画・提供等に取り組んでいきます。

### 当金庫業務のDX化

訪問活動・相談を通じて、深度ある対話と提案、解決策の協創の時間をつくるため、当金庫業務自体をDX等により効率化・高度化を図る取組みを実施していきます。



### 地域の皆様の課題解決

地域、取引先の課題に対して、当金庫においては、深度ある対話と提案を通じて、柔軟かつ責任ある解決策を協創することが大切だと考えています。2025年度においても、事業承継、販路開拓、IT・DXなど地域、取引先の課題解決を支援する施策に力を注いでいきます。

### 人財基盤の強化

役職員こそが当金庫の強みであるとの認識のもと、各人が地域の皆さまの課題解決等のお役に立てるようにスキルアップに取り組むことが重要だと考えています。そのための人材育成・開発に力を入れていきます。

# AGENDA

## 目次

1

第102期（2025年3月期）の振り返り

2

第102期（2025年3月期）の決算

3

第103期（2026年3月期）の計画

4

剰余金処分案

2024年4月1日 ~ 2025年3月31日

科目	金額
当期末処分剰余金	143,325,723 円
当期末処分剰余金	143,325,723 円
これを次の通り処分いたします	
▼	
剰余金処分額	112,191,525 円
利益準備金	▲ 177,500 円
普通出資に対する配当金	(年2%) 12,369,025 円
特別積立金	100,000,000 円
繰越金 (当期末残高)	31,134,198 円